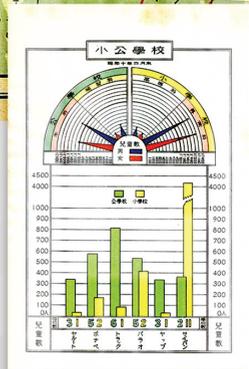
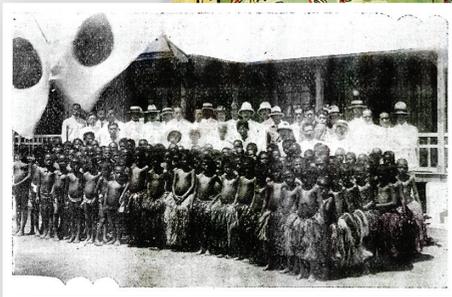
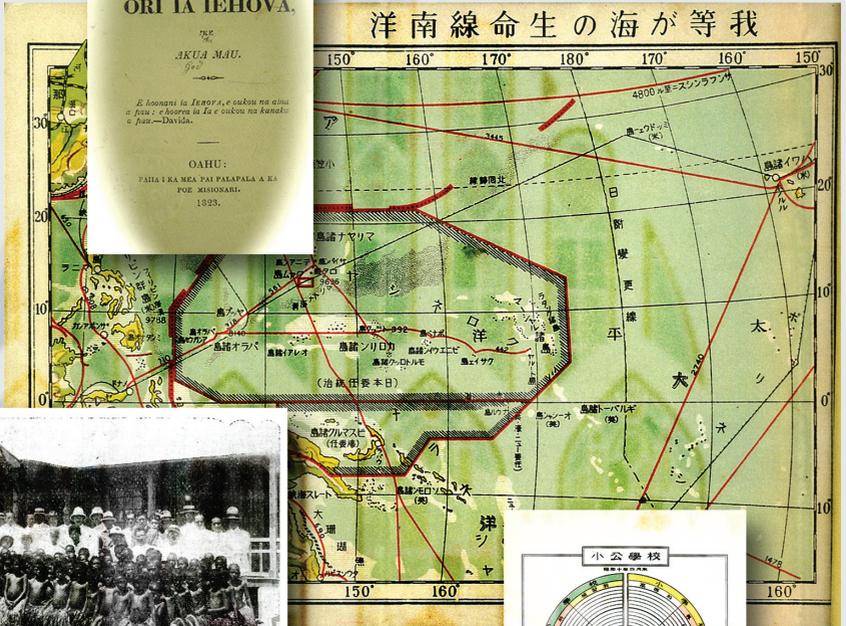


日本の唱歌と太平洋の讚美歌

— 唱歌誕生はなぜ奇跡だったのか —

奈良教育大学 音楽教育講座 安田 寛



日本の国教と太平洋の諸国教

——東洋の諸国教を以てその本質を論ずるたのむ——

著者 高橋 正 安
東京 三

目次

はじめに	12
§ 1 FM古都	14
§ 2 唱歌と童謡	15
§ 3 研究の面白さ	17
§ 4 唱歌という奇跡	19
§ 5 唱歌誕生は奇跡だった	21
§ 6 インターデイシプリン	26
§ 7 「蝶々」の場合	27
§ 8 アジア太平洋の讃美歌と唱歌	30
§ 9 キリスト教海外伝道とは	33
§ 10 伝道にとっての音楽	37
§ 11 讃美歌集の仕事	39
§ 12 宣教師は歌が上手だったのか	40
§ 13 どんな人が宣教師になったのか	45
§ 14 アンドリュウ	49

§ 15	讚美歌は簡単に受け入れられたのか	53
§ 16	土地の古くからの歌との関係は	57
§ 17	唱歌はなぜ他所では生まれなかったのか	62
§ 18	唱歌の劇的な誕生	70
§ 19	アジア太平洋で唱歌が果たした役割	73
§ 20	今後の研究について	75
あとがき		77

はじめに

安田 寛

いきなり「地味ですわね」と電話で取材してきている放送局の記者から言われた。「研究しているのは唱歌です」と答えた時のことであつた。それはそうだろうけど、もう少し言い方があるだろうに、と内心不快。でも、確かに地味な唱歌の研究に取り組んでからも何年経つたのか。まだ続けている。だからと言ってライフワークと、というほどの気負いもさらさらない。「まあ地味だから続けてこられたということもあるのでしょう」と、年がいてもなくちよつとひがんでみた記者の取材申込みであつた。「でも長く唱歌と付き合っていると、普通の人が考えている唱歌とはちよつと違つた面も見えてます。ですから他人の興味を少しは惹くのでは、と考えているのですが」と気を取り直して説明していた。

旧約聖書にバビロンの塔という有名な話がある。天にまで届くバビロンの塔を創ろうとした人間の不遜さに神が怒つて、人々に列々の言語を与えてお互いに話が通じないようにした、という話である。実際、言語は英語が普及したとはいへ、まだまだそういった面が大いにあるし、通訳なしには意志の疎通が難しい現実がそこにある。どうも音楽には神は寛大だったらしく、音楽は言語と違って、今、世界のかかりの多くの人が音楽では共通言語を理解するようになってきている。これはどうして

そうだったのか。私が話そうと思ったのはこのことであつた。

「実はこういう問題を考えたい時に、唱歌は格好の実験材料になります。結論を先に言いますと、音楽の標準語を作り、普及させたのはキリスト教宣教師だつた、と言つていいと思います。

音楽の世界地図を塗り替えたのはキリスト教宣教師です。

ヨーロッパとアメリカ以外の地域に西洋音楽を広めたものがあるとするなら、それはキリスト教海外伝道運動をおいて他には考えられない。宣教師が世界の音楽文化を激変させ、音楽の世界地図を塗り替えたのです。宣教師はもちろん日本だけでなく、ハワイでも、ミクロネシアでも、それこそ世界中で活動しました。宣教師から見れば日本は世界中にある活動地の一つにしか過ぎないのです。このことが意味するのは、日本の西洋音楽は、宣教師が塗り替えた世界音楽地図の一部でしかなかつた、ということなのです。」

「日本人が西洋文明を取入れて、それで音楽も取入れたのじゃないのですか？」と明らかに記者は不満げな口調であつた。

僕はそこでちよつと語気を強めて、「唱歌が日本で誕生したのは奇跡のようにしか思えない、というのが僕の正直な気持ちです」と言い放つた。

こうして、僕は少し重い気分で、「地味ですね」と臆面もなく言い放つた地元放送記者からインタビューを受ける日取りの相談をしていたのであつた。